

東三河地域広域的な地域活性化基盤整備計画

計画概要

◆計画期間

平成19年～平成23年(5年間)

◆計画の目標

広域連携を基軸とした産業集積強化及び国際・地域競争力向上による自立した生活圏の維持・発展

○西遠地域との連携・交流の促進及び地域産業育成による産業集積の強化

○三河港における港湾機能の維持・強化による国際競争力の向上

○高速道路網へのアクセス機能強化及び地区間の連携強化による地域競争力の向上

◆計画の成果目標(定量的指標)

指標①: 東三河地域の製造品出荷額等を48,274億円(H17)から54,000億円(H23)に増加

指標②: 三河港における年間取扱貨物量(外貿・内貿の合計)を2,524万トン(H17)から2,900万トン(H23)に増加

指標③: 三河港(神野地区)から東名高速道路(音羽蒲郡IC)へのアクセス時間を50分(H17)から45分(H23)に短縮

評価内容

◆交付対象事業の進捗状況

交付対象事業	事業費※	事業の実施状況	進捗率※
基幹事業(道路)	8,633百万円	(主)東三河環状線・白鳥工区(豊川市内)始め10箇所のバイパス、現道拡幅整備等を実施。用地交渉難航等のため予定よりやや遅れて進捗。	80%
提案事業	43百万円	三河港利用促進・競争力強化調査を実施。県境地域連携推進事業を実施。	100%
合計	8,676百万円		

※事業費は実績額

※進捗率(%)は各事業の計画に対する実施割合【基幹事業(道路)は、延長ベース】

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況 (別紙1)

- ・(主)東三河環状線(白鳥工区)の事業により、(主)東三河環状線での一般国道23号から一般国道1号へのアクセス時間が短縮された。
- ・(主)豊橋渥美線 舗装補修事業により、豊橋市明海町～田原市緑が浜町間の走行安全性を確保した。
- ・三河港利用促進・競争力強化調査の実施により、港湾貨物物流動向や先進他港事例を把握し、ポートセールス(三河港の利用をはたらきかける企業訪問)活動やインセンティブ制度導入(入港料と岸壁使用料の全額免除(H23.11.1～))の検討資料に活用した。
- ・静岡県西遠地域と東三河地域の企業マッチング事業により、新商品・新技術の開発のために9グループ(21団体)の企業連携が行われた。

Ⅱ 定量的指標の達成状況

指標①(「製造品出荷額等」: 東三河地域の製造品出荷額等)

最終目標値	54,000億円 (H23)	目標値と実績 値に差が出た 要因	評価指標にはリーマンショックの影響を強く受けた大企業の 数値が含まれており、その後の経済不況の影響も受け、評価 値は目標値を大幅に下回る結果となった。 ※平成24年経済センサス-活動調査 産業別集計(製造業)「市区町村編」統計表データより
最終実績値	37,310億円※ (H23)		

指標②(「港湾取扱貨物量」: 三河港における年間取扱貨物量(外貿・内貿の合計))

最終目標値	2,900万トン (H23)	目標値と実績 値に差が出た 要因	三河港は、取扱貨物量のうち完成自動車の取扱量が約7割 を占めているが、平成20年のリーマンショックの影響を受けた ことによる完成自動車取扱量の減少が目標値に達しなかった 大きな要因と考えられる。
最終実績値	1,766万トン (H23)		

指標③(「高速交通網アクセス性」: 三河港(神野地区)から東名高速道路(音羽蒲郡IC)へのアクセス時間)

最終目標値	45分(H23)	目標値と実績 値に差が出た 要因	(主) 東三河環状線(白鳥工区)の事業により、三河港(神野 地区)と東名高速道路(音羽蒲郡IC)とのアクセス時間が短縮 し、目標達成することが出来た。
最終実績値	45分(H23)		

Ⅲ 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況(必要に応じて記述)

- ・三河港利用促進・競争力強化調査結果をポートセールス等に活用し、新規コンテナ定期航路(ロシア・ウラジオストク港H25～)の開設に寄与した。

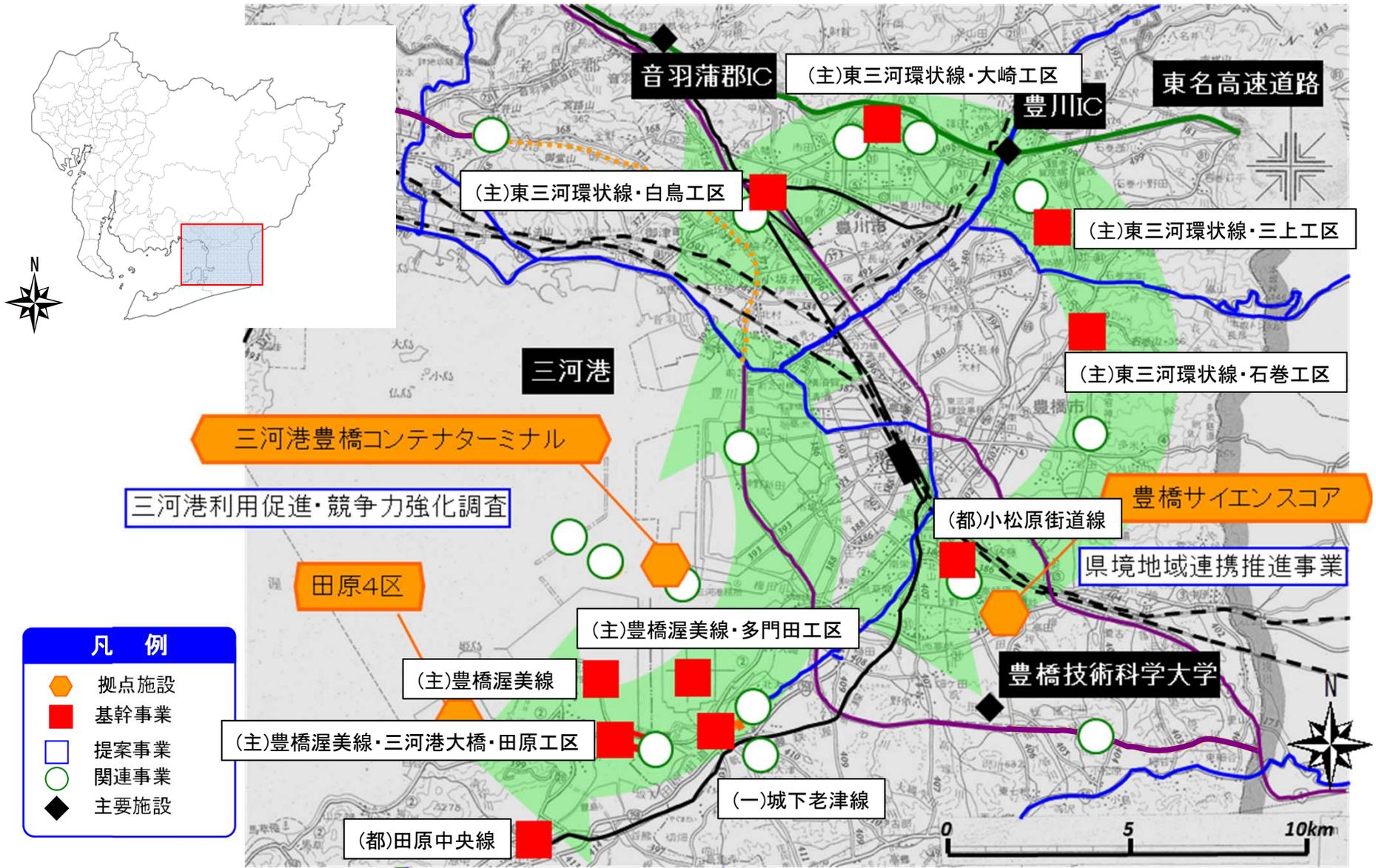
◆今後の方針

- ・未完了の道路事業については、他計画等に位置づけ用地交渉等の継続により早期整備完了を目指す。
- ・引き続き、物流動向調査結果や他港事例調査結果の活用を図りながら、セールス効果がより期待できる、戦略的なポートセールスを実施するなど、必要な港湾整備とあわせて、三河港の利用促進・競争力強化のため効果的な施策の実施に努めていく。
- ・東三河地域産業の活性化については、東三河地域で有望視されている農商工連携・医工連携等の動きを加速するとともに、新たな分野へ進出する企業を支援することで、新商品・新技術の創出を図る。
- ・さらに、新産業の基盤を担う中小企業の人材育成を支援することで、小さくてもキラリと光る企業を育て、地域経済のボトムアップを図り、「東三河振興ビジョン」が掲げる地域産業の革新展開を進める。

◆事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	策定主体にて評価を実施。なお、計画の各要素事業(基幹事業)については、愛知県公共事業評価実施要領に基づき評価を実施。
事後評価の実施時期	平成26年3月
公表の方法	WEBページ掲載 (http://www.pref.aichi.jp/kensetsu-kikaku/kouiki/kouikiteki.html)

参考図面



【基幹事業】

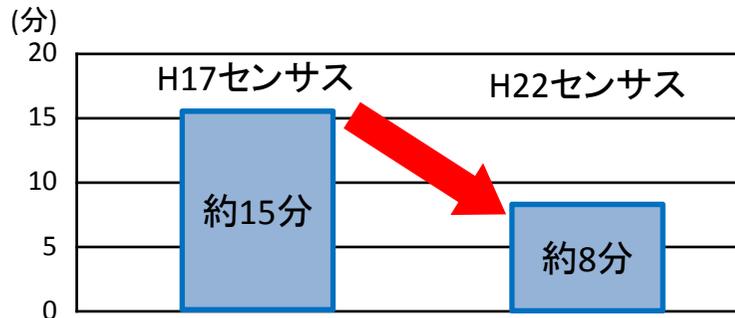
- 事業名 (主)東三河環状線(白鳥工区)
- 工事概要 4車線化工事、立体交差工事
- 事業箇所 豊川市
- 事業主体 愛知県
- 事業効果 (主)東三河環状線(白鳥工区)の事業により、(主)東三河環状線での一般国道23号から一般国道1号へのアクセス時間が短縮された。



(主)東三河環状線(白鳥工区)



(主)東三河環状線(白鳥工区)
白鳥高架橋



一般国道23号から一般国道1号へのアクセス時間(混雑時)

【提案事業】

- 事業名 県境地域連携推進事業
- 事業概要 連携推進会議の開催、企業交流・マッチング事業等
- 事業箇所 豊橋市
- 事業主体 愛知県
- 事業効果 静岡県西遠地域と東三河地域の企業マッチング事業により、新商品・新技術の開発のために9グループ(21団体)の企業連携が行われた。



地域資源の次郎柿(石巻柿)を使った製菓新商品開発

